

KTQ-GX
Challenge 2050

北九州GX推進コンソーシアム

CO₂算定部会



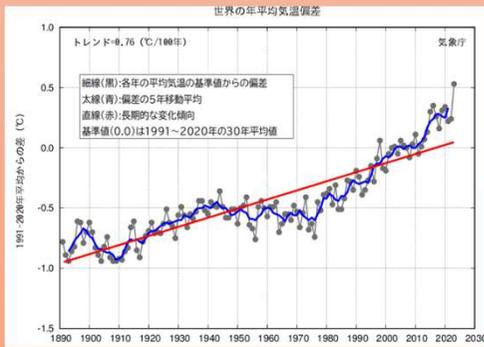
© teitan&black-teitan, City of Kitakyushu



CO2算定の必要性

気候変動の緩和・カーボンニュートラルの実現

- パリ協定で平均気温上昇を1.5℃を目標に
- 2023年時点で1.5℃目標までもう少し
- このままでは極端な高温や大雨、干ばつなどの発生頻度の上昇が予想される



削減計画を立案し効率的なCO2削減対策を実施できる

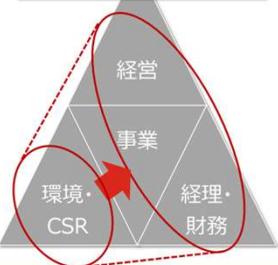
- 事業活動をCO2排出の視点で把握
- 排出量を把握しリスク・機会を明確に
- ヒト・モノ・カネを効率的に投入可能に
- 直接的なコスト削減にも

企業価値の向上が図れる

- 消費者や投資家への社会的価値のアピール
- 自社製品のCFP明記などで経済的価値を付与
- 社員のモチベーション向上、就活生からの評価など人的価値の向上



気候変動対策が
企業経営上の重要課題に



【従来】

- 気候変動対策 = コスト増加
- 気候変動対策 = 環境・CSR担当が、CSR活動の一環として行うもの

【脱炭素経営】

- 気候変動対策 = 単なるコスト増加ではなく、リスク低減と成長のチャンス (未来への投資)
- 気候変動対策 = 経営上の重要課題として、全社を挙げて取り組むもの

取引先などからの求めに応じる

- 東証プライム企業への情報開示が義務化
- 脱炭素が金融機関からのリスク確認項目に
- 温対法、GX推進法などの関連法案整備
- 海外との取引で開示を求められる(CBAMなど)



GHGプロトコルは温室効果ガスの排出量を算定・報告する際の国際的な基準です。



Scope3の15カテゴリー

【上流側スコープ3排出物】

1. 購入した製品・サービス
2. 資本財
3. Scope1,2に含まれない燃料およびエネルギー活動
4. 輸送、配送(上流)
5. 事業から出る廃棄物
6. 出張
7. 雇用者の通勤
8. リース資産(上流)

【下流側スコープ3排出物】

9. 輸送、配送(下流)
10. 販売した製品の加工
11. 販売した製品の使用
12. 販売した製品の廃棄
13. リース資産(下流)
14. フランチャイズ
15. 投資



現状

CO₂の算定を行っていない
⇒市内企業の約9割がこの状態と推測

- 算定に対する**意義**が理解されていない
- 算定に対する自社内での**興味/関心**が低い

算定は行っているが難しくわからない
⇒算定している1割の企業も悩みを抱えている

- 算定に関する**ノウハウ**や**スキル**がない
- 社内外での**相談相手**がない

企業へ期待する行動変容

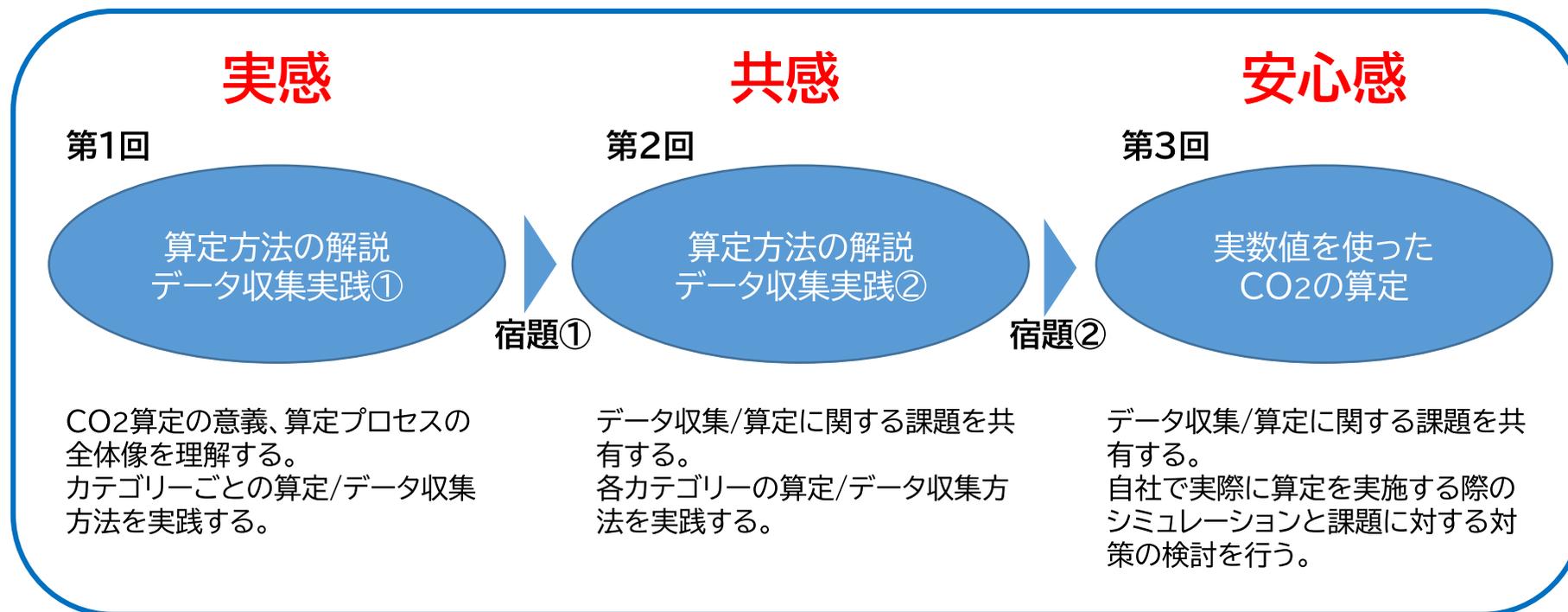
- 算定を行う意義の理解と視座向上
- ノウハウを身につけ、自走できるようになる
- 算定結果をビジネスで活用できるようになる
- 取り組みの継続につながるネットワークの構築

部会の目的

- CO₂の算定/把握する際の課題を抽出し、解決策を全体で共有する
→算定を行う会員企業への展開
→算定関連の製品/サービスを提供する企業へのヒントに
- 算定/把握を行っている企業増
→削減計画/削減活動の実施 →カーボンニュートラルへ
- 企業間での継続的なネットワークの構築

部会として
 会員企業へのCO₂算定に関する理解促進、実数値を用いた算定実施を経験してもらいます。
 全3回のプログラムを1タームとして実施します。
 参加企業の担当者が「体感的」に理解し、自社に戻り「実働」していけることを主眼としています。
 業種毎に異なる課題があると考え、初回の参加企業は「製造業」とし、課題の深掘りを図ります。

CO₂算定部会 プログラム



CO₂算定に関する本質的な理解、ツール利用、算定ならびに削減に向けた取り組み促進



プログラムの流れ

第1回

講座編

- ✓ 算定部会の趣旨と目的
- ✓ 算定プロセスの全体像と参照すべきドキュメントの解説
- ✓ 各カテゴリの算定方法の解説

実践編

- ✓ 排出量算定の実践
- ✓ サンプルデータを用いて排出量を算定

振り返り

- ✓ どんな課題が生じるか？

宿題

- ✓ 実際にデータ収集、算定を実施
→ 不明点、課題、ボトルネックを抽出

第2回

導入

- ✓ 宿題結果と課題の共有
→ グループ共有
→ 課題に対する相談/アドバイス

講座編

- ✓ 各カテゴリの算定方法の解説

実践編

- ✓ 排出量算定の実践
- ✓ サンプルデータを用いて排出量を算定

宿題

- ✓ 実際にデータ収集、算定を実施
→ 不明点、課題、ボトルネックを抽出

第3回

導入

- ✓ 宿題結果と課題の共有
→ グループ共有
→ 課題に対する相談/アドバイス

講座編

- ✓ ツールの活用、コンサルティングサービス、相談窓口の紹介

実践編

- ✓ 自社での算定実行案の検討
→ これまでの課題感を踏まえた課題の明確化
→ アプローチアイデア立案/共有
→ 算定開始までのアクションプラン

振り返り

- ✓ 部会全日程の振り返り
- ✓ 部会全体でのネットワーキング

Output

算定時につまづくポイントの抽出
→ 対応するための対策立案



FAQとしてとりまとめコンソーシアム内で共有

運営:



Members

メンバーズ

WingArc 1ST

ウイングアーク1st



北九州市

専門家:



電通総研

電通総研

IGES

IGES

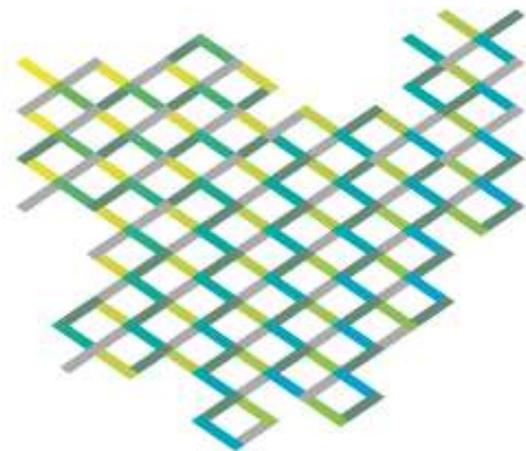
第1回部会メンバー: **製造業**の会員企業様

実施スケジュール:

1回目:6/13(木) 2回目:7/26(金) 3回目:9/6(金)

※. 毎回13:00 ~ 毎回半日程度

場所:COMPASS小倉



KTQ-GX

Challenge 2050

北九州GX推進コンソーシアム

<https://ktq-gx.com/>